

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。
②①に基づく取組み結果	市道1号線の用地取得を行った。 市道49号線予備設計委託を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	通学路に指定されている市道	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成24年度に実施した緊急合同点検により対策が必要な通学路を抽出し、通学路の拡幅や歩道を確保し登下校時における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	市道1号線に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施した。 市道1号線用地取得(A=325.3㎡) 市道49号線予備設計委託を実施した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	算定根拠
	i 学校災害件数の割合	6.0			% 業務取得
	ii 事業費【平成24年度からの累計】	65,863	127,557	195,016	千円 決算書
	iii 工事延長【累計】	115	115	115	m 業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算
事業費(千円)	61,694	67,459	金額(千円) 内容		153,070
国支出金(千円)	29,793	29,565	11,113	市道1号線用地取得	75,811
県支出金(千円)			6,877	市道1号線物件補償	
市債その他(千円)	21,900	21,800	1,298	市道1号線物件調	58,800
一般財源(千円)	10,001	16,094	5,228	市道49号線予備設計	18,459

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	児童・生徒の通学路の安全性を早期に向上させる必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	市道1号線用地取得、市道49号線予備設計	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	市道1号線物件調査及び不動産鑑定委託、市道49号線予備設計	116,388	158,134	当初	45,480	H30からの繰越	38,023
				H30⇒R1繰越	41,746		
③達成状況	未完了			補正	70,908	現年分	29,436
				流用・充当			
④未完了・非着手の理由	3月補正分の用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。	令和2年度への繰越額(単位:千円)		70,908			

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路安全対策事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	富田 浩司			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成30年度の要望に基づき、通学路の環境整備を行い、自動車講習会など安全指導面も継続して実施する。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	令和元年度の要望に基づき、通学路の環境整備を行い、自動車講習会など安全指導面も継続して実施する。併せて、通学区域変更に伴う安全対策及び児童付添活動委託など防犯対策を継続して実施する。
②①に基づく取組み結果	指定通学路上の環境整備を行い、安全指導面も予定通り実施した。併せて、児童付添活動委託など通学区域変更に伴う防犯対策を講じた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒及び通学路	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全の安心して登下校できるようにする。
②事務事業の概要	第三次通学路安全対策推進行動計画に基づき、通学路の環境整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ドライバーへの注意喚起や歩行者のための安全施設を設置することで、登下校時の通学路における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	前年度及び年度途中の要望に基づき、可能な範囲で通学路上の環境整備を行った。安全指導面については、自転車安全運転講習会やスクエア・ストレイト自転車安全教室を実施した。また、平成29年度の通学区域変更に伴う安全対策として通学路上の環境整備を行うとともに、児童付添活動など防犯対策を講じた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6	5.7	4.8	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	14,637	14,493	金額(千円)	内容		15,000	
国支出金(千円)			24,224	児童生徒安全パトロール委託			
県支出金(千円)			2,000	樹木剪定委託			
市債その他(千円)			1,315	児童生徒付添活動委託			
一般財源(千円)	14,637	14,493	286	スクエア・ストレイト業務委託		15,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	信号機設置や歩道拡幅は中長期的な整備となり、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	学校やPTAからの要望は多くあることから、まずは可能な安全対策工事を実施することとし、併せて、中長期的な工事を検討するため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	通学路整備工事や安全指導	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	環境整備工事を始め、安全指導を行った。	15,000	15,000	当初	15,000	H30からの繰越	0
				H30→R1繰越			
③達成状況	完了			補正		14,493	現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		令和2年度への繰越額(単位:千円)					

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	児童生徒安全パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	富田 浩司			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校や地域、青少年センターと情報共有し、通学路を中心にパトロールを実施していく。	③令和2年度に取組む改革・改善内容	学校、地域、青少年センター、警察と引き続き情報共有し、通学路を中心にパトロールを実施していく。
②①に基づく取組み結果	徒歩、車による市内全域のパトロールを行い、巡回箇所強化や不審者情報への対応も強めることができた。また、平成30年度に実施した通学路緊急合同点検の結果を踏まえて、鎌ヶ谷警察と情報共有し、下校時のパトロールを行って頂いた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒のために安全な地域環境の維持を図る
②事務事業の概要	市内の指定通学路や公園などにおいて、不審者等に対する警戒パトロール及び下校時の見守りを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	パトロールによる犯罪の抑止を目的とし、下校時の見守りを中心に児童生徒の安全を確保する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	市内全域を12名6班体制でパトロールを実施した。また、夏休み等の長期休業の時は、児童生徒の集まる公園等も重点的に巡回した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6	5.7	4.8	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	18,679	24,224	金額(千円)	内容		27,157	
国支出金(千円)			24,224	児童生徒安全パトロール委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	18,679	24,224				27,157	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下校時間帯の不審者情報が多く見られることから、学校、地域、青少年センター、警察とも連携し、迅速に対応していく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	通学路の安全確保は継続的に行う事業であり、各関連機関と連携し、臨機応変に対応する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	児童生徒の安全確保のため、パトロールの実施。	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	継続的に市内通学路を中心にパトロールを実施した。	24,886	24,886	当初	24,886	24,224	H30からの繰越
				H30⇒R1繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			24,224
		令和2年度への繰越額(単位:千円)					

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校給食運営に要する経費	会計	款	項	目	多額
		一般	10	5	3	経費
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	桂本弘明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	食物アレルギー対応の除去食は7品目(卵・乳・落花生・えび・かに・小麦・そば)除去を目指しており、今後更なる拡充が必要。	③令和2年度に取り組む改革・改善内容	学校給食用食材における地産地消(鎌産鎌消)食材の拡充および学校との食育連携の取り組みと、小学校に続き中学校における食物アレルギー除去食の安全な提供を実施する。
②①に基づく取り組み結果	食物アレルギー対応では卵・乳除去から始まり、平成29年6月に落花生、平成30年6月にえび・かに、令和元年6月に小麦を加えた除去食提供を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	食育を通じて食の大切さを伝える
②事務事業の概要	市内小中学校14校に対して、安全で魅力ある学校給食を安定的に提供し、児童生徒の健康増進を図るとともに、食に対する理解を深める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	栄養バランスの良さ、豊富な献立などの給食の充実や地産地消(鎌産鎌消)の拡充および食育の取り組みへの要望がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	①小中学校14校児童生徒 8,179人(令和元年5月1日現在)に対し年間170日の学校給食を実施、②アレルギー対応食(除去食)の提供、③栄養士による学校訪問(14校)、④センター見学(28クラス854人)、⑤展示・Facebookによるセンター紹介					
②成果を表す指標	指標名称	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i 給食実施日数	184	184	170	日	業務取得
	ii アレルギー対応食の提供人数	8	9	11	人	業務取得
	iii 学校見学対応人数	742	969	854	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳		令和2年度予算	
事業費(千円)	851,600	837,677	金額(千円)	内容	886,087	
	国支出金(千円)		408,767	給食賄材料購入		
	県支出金(千円)		63,779	センター施設購入		
	市債その他(千円)		42,100	維持管理業務負担金		
	一般財源(千円)	851,600	837,677	307,577	運営業務負担金	886,087

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	食物アレルギーのある児童・生徒が、他の子どもたちと同じように学校給食を楽しむことを目指して、食物アレルギー事故の防止に努め除去食を提供する。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	食物アレルギー対応の除去食については、小学校に引き続き、中学校への提供へ今後、更なる拡充が必要のため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	令和元年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H30⇒R1繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当		
		令和2年度への繰越額(単位:千円)		

令和2年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校給食費徴収システム整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	桂本 弘明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和2年度に取組む改革・改善内容	学校給食費徴収システム及び徴収業務委託により、保護者から直接市が学校給食費の賦課徴収収納管理を行う。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校	意図(対象をどうするのか)	徴収システムの整備
②事務事業の概要	学校給食費に関して、市が一括賦課収納管理するシステムを整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	国より、学校教員の多忙化解消、働き方改革の一環として、学校給食費の徴収・管理は地方自治体が行うべきものとの方向性が示されている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和元年度の事業の成果	学校給食費徴収システムの導入・構築を行い、口座振替を開始するための各銀行との手続きを行った。また、学校及び保護者に説明を行うとともに、保護者に対して口座振替依頼書の提出を依頼し、口座情報の整備を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	算定根拠
	i	学校給食費徴収率			94.52	%	決算額
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成30年度決算	令和元年度決算	令和元年度決算(事業費)の主な内訳			令和2年度予算	
事業費(千円)	0	856	金額(千円)	内容		7,620	
	国支出金(千円)		345	口座振替依頼書印刷			
	県支出金(千円)		335	学校給食費徴収業務委託			
	市債その他(千円)		176	預金口座振替業務科目作成委託			
	一般財源(千円)	856				7,620	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	令和2年度から市が直接保護者より学校給食費を徴収するが、より保護者と接する機会が多い各学校が徴収の窓口を担っていた時と比較すると保護者への納付勧奨の機会が減少すると想定されることから、徴収率の維持・向上に向けた取り組みを強化していく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	令和元年度は準備期間であったが、導入・構築した学校給食費徴収システムを活用した徴収業務について、精査・検証を行う必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和元年度の計画	システム運用準備	令和元年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	徴収システムの導入・構築を行い、各銀行等と口座振替開始に係る手続きを行った。	798	856	当初	798	856	H30からの繰越
				H30⇒R1繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当	58		
		令和2年度への繰越額(単位:千円)					